

山陰海岸ジオパーク用語解説（2025年12月）

アイデンティティ

自分という存在の個性や独自性を意味し、多様な他者や社会との関わりの中で形成される「自分らしさ」。

アカデミック

学問の上で正統的で堅実なさま。学術的。学究的。

アクティビティ

特にリゾート地などでのさまざまな遊びについていう。山陰海岸では、海・山・川・砂丘など様々な場所で様々な活動が活発に行われている。シーカヤック、SUP、サーフィン、ウィンドサーフィン、ダイビング、スノーケリング、サンドボード、パラグライダー、ファットバイク、熱気球、ラバートレッキング、ツリーイング、サイクリングツアー、フォレストアドベンチャー、ヨガ、遊覧船・海上タクシーなど。

アジェンダ（agenda）

実施すべき計画。行動計画。特に、国際的な取組みについての行動計画。

アップデート

最新のものにすること、更新すること。

インスタグラム（Instagram）

iPhone または Android 端末で画像や短時間動画を共有する、無料のスマートフォン・アプリ及びそれを用いたサービスのこと。写真に特化した SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）と言え、スマートフォンで撮影した画像やカメラロール（画像が保存されている場所）に入っている画像を多彩なフィルターで様々に加工し投稿・共有できる。

インバウンド

元々は「外から中に入り込む」という意味だが、一般的に外国人の訪日旅行の意味で使われることが多い。

ウェルビーイング

ウェルビーイング（Well-being）は、「well（よい）」と「being（状態）」を組み合わせた言葉で、心身ともに健康で満たされた状態を指す。単に病気ではないだけでなく、身体的、精神的、社会的に良好で満たされている状態のことで、広義の「幸福」と訳されることもある。世界保健機関（WHO）は、ウェルビーイングを「個人や社会の良い状態であり、健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定される」と定義している。

エンパワーメント

個人や組織が自らの力を高め、目標達成を目指すための重要な考え方。

ガイドライン

特定の業務や行動に関する指針や基準を示すもの。

カウンシル

特定の目的のために集まり、議論や意思決定を行う人々の集まりを指す。

観光レジリエンス

自然災害、経済不況、公衆衛生危機などの困難な状況に対し、観光を基盤とする地域やコミュニティが耐え、適応し、回復する能力を指し、これは、観光ビジネスの業績回復だけでなく、社会インフラや自然環境の回復も含まれている。

乾燥地研究センター

鳥取大学乾燥地研究センターのことで、1990（平成2）年6月8日に全国共同利用施設として設立された、乾燥地問題に組織的に取り組む、国内唯一の研究機関である。略称は「乾地研（かんちけん）」

気候変動

気温及び気象パターンの長期的な変化を指す。1800年代以降は主に人間活動が地球温暖を進めており、その影響が懸念される。

キャッチコピー

人の注意をひく広告文、宣伝文。

キャパシティ・ビルディング (capacity building)

個別の能力強化だけでは、組織力の強化には結びつかないと認識から、NPO・NGO、途上国の開発、企業を中心に注目され始めたのが、キャパシティ・ビルディング (capacity building) というアプローチである。「組織的な能力・基礎体力（キャパシティ）を形成・向上・構築（ビルディング）していくこと」と定義される。

拠点施設

山陰海岸エリアにおける情報の拠点施設。現在、全体の案内ができる8施設を拠点施設とし、うち、2施設（新温泉町山陰海岸ジオパーク館及び鳥取県山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館）を中心とした中核拠点施設としている。また、地域のビズターセンターとして「その他の拠点施設」もある。

グリーンツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

玄さん（玄武岩の玄さん）

兵庫県豊岡市で主に活動する地域キャラクター。2009（平成21）年登場。頭が六角形の玄武岩の形をした石工職人のイメージ。同市と「山陰海岸」の観光PRを目的に制作。名称は「玄武岩」に由来。「玄武岩の玄さん」ともいう。山陰海岸ジオパークでは、この度の行動計画改訂に際し、6つの分野に再編するイメージに六角形の玄さんを（豊岡市の承認を得て）使用。

鉱石

人間の経済活動にとって有用な資源となる鉱物、またはそれを含有する岩石。

鉱物

地質学的作用により形成される、天然に産する一定の化学組成を有した無機結晶物質のこと。

ジェンダー平等

ひとりひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かちあい、あらゆる物事を一緒に決めることができること。

ジオサイト（見どころ）

ジオサイトとは、ジオパーク内で見どころとなる場所のこと。地形や地質、動植物の生態、歴史や文化など、地球（ジオ）とのつながりのある場所。地質サイト、文化サイト、自然サイトがある。「地球の活動がわかる地質や地形がある場所」が本来の意味で地質サイトのことをいう。

ジオツーリズム

地域の地史や地質現象などがわかる大地の遺産を訪ね、古い時代の生物と環境との関係や、人類の文化的な足跡などを学ぶ観光旅行。地質観光ともいう。また、広義には地域がジオパーク（地質遺産）の保全を進めながら、博物館の整備や自然観察などの普及を図ることにより、持続可能な地域社会、経済活動の基盤をつくることも含めている。ジオ geo は、ギリシア語の ge（大地）に由来し、地球や土地、地理などの意味がある。

ジオライナー

JR西日本が山陰本線の鳥取～豊岡間を運行する臨時快速列車である。2010（平成22）年10月に山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワークに加盟認定されたことを受けて、域内の観光促進を目的に2011（平成23）年4月2日より運行を開始した。現在は「あめつち」が運行されており、列車の性質は異なるものの、ジオガイドが乗車して案内し、鳥取発の往路をほぼ同じ時間に設定するなど、事実上の後継となっている。

ジオロジカルヘリテージ

ジオロジカルヘリテージは、「地質遺産」を指す言葉。国際地質科学連合（IUGS）が主導して、学術的価値の高い地質を「IUGS地質遺産サイト」として認定している。

自然再生可能エネルギー

石油や石炭、天然ガスなどの化石エネルギーとは違い、太陽光や風力、地熱といった地球資源の一部など自然界に常に存在するエネルギーのこと。環境にやさしく、枯渇する心配が無いため、新しいエネルギーとして注目されている。

深化

ものごとを深めていくこと。もっともレベルを上げていくこと。

スキル

通常、教養や訓練を通して獲得した能力のこと。

ステークホルダー

活動に関わる利害関係者のこと。具体的には消費者（顧客）、従業員、株主、取引先、地域社会、行政機関などとされている。地域住民。

ステップアップ会議

ステップアップとは進歩すること。山陰海岸ジオパークでは2017（平成29）年の日本審査でのイエローカードからの改善を目指すために、府県エリアごとに住民との協議の場を設けている。

世界農業遺産

世界農業遺産（GIAHS）とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承してきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった。世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域（農林水産業システム）であり、国際連合食料農業機関（FAO）により認定される。

地域振興

地域の特性を活かしながら、人々が住み、働き、学び、遊ぶといった暮らしの総合的な環境を整え、地域の活力を引き出し、または、創り出していくこと。

地質物品

ユネスコ世界ジオパークのガイドラインに記述された「地質物品の販売に特化した部分の記述では、①地質遺産、②地質学的なもの、③地質学的な物質、という3つの用語が使われていて、定義も他の用語同様に、不明瞭で確定していません。

「地質学的物質」は『岩石や鉱物などからなる原材料など、広範囲の地質関連の物質』とされており、その適用範囲は極めて広いと考えられる。地質学が扱う物質は、岩石・化石・鉱物に限らず、水やガス、空気、土砂、砂礫など、地球上のありとあらゆる物質に及ぶ。もちろん「岩石や鉱物などからなる原材料など」という制限があるにしても、「など」がついている以上、範囲はあまり限定されていない。

ツーリズム

旅行者の活動だけではなく、旅行者に様々な価値（商品、サービス、情報、資金、技術、

交流、文化、自然環境、景観）を提供する観光事業者、地域住民、自治体等の活動、及びその相互作用により起こる現象のこと。

データベース

ある特定の条件に当てはまる「データ」を複数集めて、後で使いやすい形に整理した情報のかたまりのこと。

テーマ型周遊ツアー

山陰海岸では、断層と温泉、地形と関わり合う漁港、巨石と信仰など、テーマ別にエリア内を周遊してもらうためのルート設定を進めている。

ノベルティ

進物広告または景品広告ともいう。実際に役に立つ品物に、社名や商品名などを記入して顧客に配布する広告方法のこと。バッグ、ノート、カレンダーなど。

パートナーシップ

協力関係。共同。提携。複数の個人や法人が協力し、共同で事業を行う形態

はだしのコンサート

京丹後市網野町の琴引浜で毎年開催されている「貴方の拾ったゴミが入場券」を合言葉とする環境啓発イベント、ビーチクリーンライブである。

パブリック・コメント

公衆の意見。また、公的機関等が命令・規制・基準などを制定・改廃する際に、事前に広く一般から意見を募ること。意見公募手続き。

ファシリテーター

会議やプロジェクトなどの集団活動がスムーズに進むように、また成果が上がるよう支援することを専門的に担当する人をいう。集団活動そのものに参加せず、あくまで中立的な立場から活動の支援を行うようとする。

フィードバック

結果の情報を与えることで、調整がきくようとする仕組み。

フェイスブック (Face Book)

アメリカフェイスブック社の提供するソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)。もともと米国の学生の交流を目的に開発され、サークルやパーティーの募集、就職や趣味など、さまざまな情報交換に利用されている。

フットパス

森林や田園などに設けられた歩行者用の小道。ありのままの自然や、古い町並みなどの風景を楽しみながら散策するためのもの。トレイル、オルレなど。

プロパー

任期を切らずに任用して常勤の職員とした者。

プロモーション

販売を促進するために活動すること。

ベネフィット

物事から得られる利益や恩恵を指す言葉で、金銭的なものだけでなく、心理的・機能的な利益も含まれる。

防災教育

様々な危険から安全を確保するために行われる安全教育の一部で、災害時に命を守るために知識や行動力を身につけるだけでなく、自ら考え、行動する力を養うことを目的としている。

保護保全管理計画

2015（平成27）年の世界ジオパークのユネスコ正式事業化や「日本ジオパークネットの自然資源保全に関する指針」をふまえ環境省近畿地方環境事務所と連携して改訂した計画。

ポテンシャル

潜在能力、現状は測ることのできない未知の能力。

ボトムアップ

下からの意見を吸い上げて全体をまとめていく管理方式。（ \leftrightarrow トップダウン）。

マネジメント

経営などの管理をすること。組織が社会や個人のニーズを満たし、その存在意義を果たすための重要な仕組み

マンスリーコラム

山陰海岸ジオパークのホームページ上の投稿コラム。毎月1名（団体）が、旬の話題等をジオパーク関係者が投稿し掲載していた。

見える化

企業や組織における財務、業務、戦略などの活動実態を具体化し、客観的に捉えられるようにすることである。「見える化」という表現は使わず、「可視化」と言い換えられることもある。

見どころ

ジオサイトともいわれるが、地質、文化、自然のテーマからなるエリア

見どころ魅力アッププラン

魅力向上・発掘プロジェクトで検討された取組みを地域ごとにまとめた計画

魅力向上・発掘プロジェクト

国立公園・ジオパーク内の地域において、有識者による現地視察を行い、意見を収集することで、地域資源の活用、効果的な情報発信等の各種取組みについて課題を把握・検討し、ジオパークの魅力向上につなげるプロジェクト。（完了）

モニタリング

状態を監視すること。状態を把握するために、観測や測定を行うこと。製品・サービスについての感想や評価を調べること。

Unesco ユネスコ

国際連合教育科学文化機関。United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization = UNESCO 諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関。創設は1946年11月4日、日本の加盟は1951年7月2日。本部はフランス・パリにある。

UGGp ユネスコ世界ジオパーク

UNESCO Global Geopark = UGGp

地層、岩石、地形、火山、断層など、地質学的な遺産を保護し、研究に活用するとともに、自然と人間とのかかわりを理解する場所として整備し、科学教育や防災教育の場とするほか、新たな観光資源として地域の振興に生かすことを目的とした事業。ユネスコの国際地質科学ジオパーク計画（IGGP）の一事業として実施。

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）

世界自然遺産が、顕著な普遍的価値を有する自然を厳格に保護することを主目的とするのに対し、ユネスコエコパークは自然保護と地域の人々の生活（人間の干渉を含む生態系の保全と経済社会活動）とが両立した持続的な発展を目指している。登録地域は、域内の自然の成り立ちや、そこに育まれた歴史文化に対する理解を深めるほか、

地域づくりの担い手を育成することが期待されている。また、世界ネットワークの一員として、登録地域同士の学び合いを通じてさらに取組を進めることが求められる。

ユネスコの正式プログラム化

ユネスコ世界ジオパークの前身である「世界ジオパーク」は、ユネスコの支援のもとに2004年に設立された「世界ジオパークネットワーク」(仏のNGO)が、審査・認定に関する業務を実施していたが、各国での世界ジオパークへの関心の高まりを受け、本事業をユネスコの正式事業化することが提案され、第38回ユネスコ総会において「ユネスコ世界ジオパーク」として、正式事業化が決定。正式事業化後の審査業務については、世界ジオパークネットワークとの連携の下、ユネスコ世界ジオパーク・カウンシルが行い、認定については、同カウンシルの勧告を踏まえ、ユネスコ執行委員会が行う。

羅針盤

航海などに際し、方位を知るための装置。コンパス。比喩的に進むべき道を示すもの。

ラムサール条約

1971年2月2日にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された湿地に関する条約。正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」というが、採択の地にちなみ一般に「ラムサール条約」と呼ばれている。

リコメンデーション／レコメンデーション

「推薦」や「推奨」を意味する言葉

リニューアル

新しくすること。新しいものに変えること。一新。店舗などを改装・改修すること。

旅行エージェント

旅行代理業者、店。

レスボス島ジオパーク

山陰海岸ユネスコ世界ジオパークとレスボスユネスコ世界ジオパーク（ギリシャ）は2011（平成23）年2月に姉妹ジオパークとなった。ジオパーク活動による地域活性化を目指す山陰海岸ユネスコ世界ジオパークでは、世界のジオパークと協力して、ジオパーク活動の発展と普及を目指して、姉妹提携を通じたネットワーク構築を推進している。姉妹提携を結ぶことにより、資源の保護や活用などの情報交換、ジオパークの紹介や宣伝などで協力している。

エーゲ海に浮かぶ島、レスボス島にあり、トルコ沿岸に位置するこの島は古代ギリシャの女流詩人サッポーの出身地として、また、ウズ（アニスで香りをつけた蒸留酒）、オリーブ、鯛および鯛加工品生産で有名。クレタ、エヴィア（エイボイア）に次いでギリシャで三番目に大きな島（面積1,620km²）には約9万人（2001年現在）が暮らしており、気候は温暖な地中海性気候で、ギリシャの島にしては水が豊富なため緑豊かなことが特徴。

レベルアップ

「水準の上昇」「成長」「昇格」「向上」を意味する和製英語

ロゴマーク

もともとは印刷用語として使われ、2字以上の文字を1本の活字に鋳込んだものをいっていた。近年はブランド名や商品名、社名など「デザインされた文字」のことをさす。シンボルマーク的（デザインにオリジナリティがあり、より象徴性が高い）に使われるためロゴマークと呼ばれる。山陰海岸では、協議会構成員、構成員以外の者が、ジオパークにちなんだイベントのチラシ、商品パッケージに使用することができる（協議会の許可手続きが必要）。

ロング・トレイル

登山道やハイキング道、林道、古道などをつなぎ合わせた距離の長い自然歩道。宿泊しながら、土地の自然や文化、地域の人とのふれあいを楽しむ。

ロング・ライド

自転車で長距離を走行すること。国際自転車競技連合などが定める自転車競技の正式な名称ではないが、多くの自転車イベントで使用される。

山陰海岸ジオパーク・ロング・ライド・ラリーは、エリア内で実施されている3つのライド全てに参加してもらうイベント。2019（令和元）年から実施。

APGN (Asia Pacific Geoparks Network)

アジア太平洋ジオパークネットワーク (Asia Pacific Geoparks Network) は、アジア及びオセアニアに所在するジオパークのネットワークである。略称は、APGN。2004年にユネスコ地球科学部門の支援のもとに設立された。ヨーロッパジオパークネットワークと並び、世界ジオパークネットワーク (GGN) の傘下にある。2年ごとにシンポジウムと称する国際会議を数日間にわたって開催している。アジア太平洋地域の世界ジオパークを中心に、ジオパーク、及びジオパークを目指している地域の関係者や興味・関心のある人々が集まる。このシンポジウムは、ジオパーク活動を通じた地球科学の振興や、教育活動、環境の保護・保全、地域社会との協働、観光、地域経済など、様々な分野における取組み事例の紹介や今後の方向性を議論する場となっている。第4回 2015（平成 27）年は山陰海岸で開催された。

AR アプリ

拡張現実 (AR) 技術を用いたアプリ。スマートフォンやタブレット型端末のカメラをかざすと、実世界の対象物に重ねて動画が再生されたり、関連情報を取得できたりする。

DMO

Destination Management Organization の頭文字の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。(国土交通省)

GGN 世界ジオパークネットワーク

Global Geoparks Network (世界ジオパークネットワーク)

ユネスコの支援により、2004（平成 16）年に世界ジオパークネットワーク (GGN) が設立。GGN は、ユネスコ世界ジオパーク認定地域が情報や運営のノウハウを交換するためのネットワークで、その事務局はユネスコの環境・地球科学部門にある。

JGN 日本ジオパークネットワーク

Japanese Geoparks Network (日本ジオパークネットワーク)

日本国内のジオパークとジオパークをめざす地域で構成されている。日本ジオパーク委員会 (JGC) の審査をクリアして日本ジオパークに認定された地域は、JGN の正会員となる。日本ジオパークを目指す地域は、準会員として JGN に参加し、必要な支援を受けることとなる。

IGGP 国際地質科学ジオパーク計画

ユネスコと国際地質科学連合 (IUGS) が共同で推進する国際的なプログラムで、この計画は、地球科学の研究促進と、貴重な地質遺産を有する地域の保護・教育・地域振興を目的としている。

IUGS 地質遺産

国際地質科学連合（IUGS）が選定した、地球科学の研究にとって重要な地質学サイト（場所）である^[1]。IUGS 設立 60 周年記念として 2022 年、第一回の玄武洞を含む 100 ケ所が選定された。それ以降は 2 年ごとに新たに 100 ケ所を選定していく予定である。日本では、野島断層、喜界島（鹿児島県）、平成新山（長崎県）が認定されている。

PDCA サイクル

行動プロセスの枠組みのひとつ。Plan（計画）、Do（実行）、Check（確認）、Action（行動）の 4 つで構成されていることから、PDCA という名称になっている。

PV（プロモーションビデオ）

Promotion Video。宣伝・販売促進用のビデオソフト。

SDGs

2001 年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。

SNS

Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略で、ソーシャル（社会的な）ネットワーキング（繋がり）を提供するサービス。Face Book、Instagram、Twitter など。

SUP

Stand Up Paddle（スタンド・アップ・パドル）の略。海外ではエス・ユー・ピー、日本ではサップと呼ばれ、ボードに立ってパドルで漕ぐスポーツ。

Web

World Wide Web（ワールド・ワイド・ウェブ）の略で、単語の頭文字をとって別名 WWW とも表現される。Web は日本語で「クモの巣」を意味し、それが World Wide（ワールド・ワイド）に広がった、つまり「情報と情報がまるでクモの巣のように網目状に張り巡らされた世界」をイメージしている。

YouTube

アメリカ・カリフォルニア州サンブルーノに本社を置く世界最大の動画共有サービス。You は「あなた」、Tube は「ブラウン管（テレビ）」という意味である。

YouTuber

主に動画共有サービス YouTube 上で独自に制作した動画を継続的に公開する者を指す名称である。狭義では「YouTube の動画再生で得られる広告収入を主な収入源として生活する」人物を指す。